

114
A2078



置是ナリ

士族ノ位置ニ因ムハ士族ノ用ヲ知ラザルニ由ル

今先ツ士族ノ用ヲ説カシ蓋シ今日ノ士族アルハ國ノ幸福

士族ハ四ノ精神ナリ

ナリ
各士ノ世態ヲ視ルニ國ノ獨立ヲ持シ同化ヲ進ムルハ往々

官ニ非ス農ニ非ス一種中等ノ族類アリテ之カ弊ガヲ爲ス

ニ由ル

支那ノ古ヘニ士ト称スル者アリ古ク學ヒ後ヲ待チ禮義ノ

租成リ百事皆歸着スルハ獨リ一事ハ環

之カ所ヲ爲スノ方法ヲ知ラズル者ハ士族ノ處

大正十一年四月
大隈
贈



郷ニ居リ農耕ヲ事トセス孔子ノ門人ハ大抵魯衛ノ人ニ過
キス而メ俄カニ三千ノ多キアルニ至ル當時紳士ノ夥キ丁
知ルベシ印度ノ種族ヲ分テ四トナス第一刹帝利即チ貴族
ナリ第二婆羅門婆羅門ノ譯ハ猶淨行ト云カ知シ法ヲ講シ
道ヲ修メ衆ヲ濟シ世ヲ度スルヲ以テ務メトス歐羅巴ニリ
一フルプロヘシオント稱スル者アリ儒師醫師訟師狀師ノ
類ヲ云譯自由職業トス其普通學校ヲ除クノ外中學以上ハ
即チ自由職業ヲ教フルノ形ナリ撰ハレテ代^議人トナル者多
クハ自由職業ノ人ナリ官ニ就キ職ニ陞ル者大抵訟師ノ稱
ヲ帶ル者ナリ或ル國ニ於テハ自由職業ノ人ハ家産ノ多寡

ニ拘ラズメ代^議人撰擧ノ權ヲ有セシム〔白耳義〕而メ佛國ノ如
キ自由職業ノ多キ國民百分ノ五ニ居ル^十百七ニ至ル自由職
業ノ盛ニメ且ツ多キ^一是ノ如シ蓋シ支那ノ紳士ト云印度
ノ婆羅門ト云歐羅巴ノ自由職業ト云其實ハ一ナリ獨リ
我カ國從前武士アリテ文士ナシ所謂自由職業ナル者アル
トナシ
今ノ所謂士族ナル者ハ旧トノ騎兵ナルニ過キズ即チ武士
ナル者ナリ徳川氏ノ時昇平口久ク士族皆ナシ^テ文學ニ涉
リ武士ノ名ヲ以テ其實文士ヲ兼ネ礼義ヲ重シ順逆ヲ辨シ
其中奮テ爲ス者アリテ起リ以テ王權ヲ復シ國化ヲ進メ今

日アルヲ致セリ是レ支那ノ紳士印度ノ婆羅門歐羅巴ノ自由職業ト其性質ヲ異ニスト云々我ト其僞用ヲ同セリ
名ニ士族ノ兵役ヲ辭ク是レ今日ノ士族ハ純然トシテ文ヒナリ以テ専ラ自由職業ニ進ムベキ者ナリ況ヤ世道新ニ就キ
儒医法律ノ職ニ欠クベカラズ又少クスベカラザルノ日ニ當レリ國ノ獨立ヲ持シ開化ヲ進メ官民ノ間ニ立テ之カ
勢力ヲ為ス_ト士族タル者方ニ其任ニ盡ルナリ果ノ儒医法律諸科ノ學ヲノ駁トメ日ニ進マシメハ今日ノ士族ヲ攀テ
尽ク其業ニ就カシムルモ猶ホ人ニ足ラザルヲ困マントス
士族四十万猶速ク佛ノ自由職業百七十万ノ數ニ及バズ

今日ノ士族アルハ國ノ幸福ナリ士族無ラシメハ過去ノ事其今日アルニ至ル_ト未タ知ルベカラズ而メ未來ノ開化ヲ進ムルニ亦何ノ所ニカ其人ヲ得ン乎試ミニ今日ノ士族ナル者ナシト想像センニ我國ノ景況ハ果メ何等ノ地位ニアルベキ乎我カ農商ハ絶ヘテ獨立ノ氣象アル者ニアラス又學問ノ思想アル_トナシ農商ノ學ニ進ムヲ待タシ欺百年茫々未タ期スベカラズ其ノ支那朝鮮ト比列セントスルモ恐クハ得易カラザラントス故ニ曰ク今日ノ士族アルハ國ノ幸福ナリ、士族ヲ以テ遊民トシ贅物トスルハ是レ古今人世ノ景況開化ノ源流ヲ熟思セザルニ由ル果メ今日ノ士族ヲ遊民

贅物ナラシメハ是レ孔門三千亦遊民贅物ナリ、印度ノ婆羅
門亦遊民贅物ナリ、佛國ニ百万ノ儒匠法律ノ士、亦遊民贅物
ナリ、古人云、寸ヲ以テ量レハ則チ足ラズ、尺ヲ以テ量レハ則
チ餘リアリト、士族ヲ贅物トスルハ、是レ寸ヲ以テ量ルノ見
ナリ、

以上士族ノ用ヲ論ス

次ニ又士族ノ情状ヲ説カシ士族タル者亦自ラ士族ノ用ヲ
知ルヲ能ハズ俸ヲ還シ商ニ就キ從テ産ヲ失ヒ流落スル者
十二二三官ヲ求メテ官塗ニ已ニ塞カル坐食ノ窮乏シ無聊
ノ餘、不平声ヲ吞ミ、以テ天下ノ一日事アルヲ待ツ者十二三

六ニ居ル顧ミテ政府ノ處置如何ト視ルニ之カ義務ヲ与ヘ
ズ又其職業ヲ勸導セズ之ヲ度外視シ之ヲ敵視スル者ノ如
シ今日ノ勢、士族ノ怨望、已ニ竅、キ点ニ迫レリ
今マ一ノ不軌ノ士アリテ予ニ嚙キノ起リ嘯聚ノ乱ヲ為ス
トアラハ必ズ枯葉ヲ振フヨリモ易カラシ隣ニ相應シ聲勢
相合スルニ至ラハ陸軍十方怨クハ估ムニ足ラサルナリ唯
タ現今名ノ以テ人ヲ動スナク機ノ以テ彼スルニ足ルナシ
故ニ遊ヲ潜ムルノミ若シ更ニ祿ヲ褫フ等ノ事アラハ是レ
名ト機トヲ以テ彼レニ与フルナリ禍乱ノ發スル足ラ致テ
待ツベシ

或ハ多ク殺スニ非レハ以テ威ヲ立ルニ足ラズ士族ノ乱ハ
怨ルニ足ラズト謂ニ欺抑明治六年ノ後ハ明治六年ノ前
ニ非ルナリ勝ニ但フハ英雄モ免レザルノ病ト云フソテ
下治ヲ称フルノ時即チ藤原世ヲ遁ルノ日ニ非ルナ
ラ知シ予哉建武ノ中興猶ホ一朝ニテ地ニ委タリ鑑ミザル
ベカラザルナリ
幸ニ今日士族ノ方向猶未タ外ニ去ラズ蓋^猶早キニ及テ施
スベキノ術アルナリ

以上士族ノ借状ヲ論ス

然ラハ如何ノ可ナラン今日ノ勢士族ノ心ヲ得ルヤハ安ク

士族ノ心ヲ失フハ危シカラ能ク士族ヲ牽ケテ之ヲ殲ス
ベキ氏ハ士族ヲ激シテ其乱ヲ誘クナ可ナリ乃チ然ラザル
ニ在テハ之ニ反スルニ若クハナキナリ今日ノ計一言ニ
ノ決セリ曰務メテ士族ヲ厚クメ其用ヲ收ムルナリ
士族ヲ厚クスルノ方法ハ曰士族學校ヲ起メ特ニ學制ヲ設
ケ專ラニ中學ト變則學トヲ以テ士族ノ子弟ヲ教育ス又其
テ學優長ナル者ヲ貢進セシム[〔]那破翁一世榮爵ヲ設ケ榮爵
ノ子弟ヲ教フル為ニ另ニ學校ヲ設ケタリ[〕]曰士族十戸以
ノ縣ヲ調ヘ一等縣トシ特ニ必ス縣令ヲ置ク曰士族ヲ貴族
ニ例ス曰士族ノ徽章ヲ与ヘ平民ト殊ナルヲアラシム曰士

族ノ廉恥ヲ責メ破ル者ハ實決ニ并セテ除族收禄シ士族ヲ
ノ自ラ異ナル形ヲ知ラシム曰地方ノ巡查ハ専ラ士族ニ采
ル是ハ曰平民學科アリテ級ニ階リ及國ニ功勞アル者
登ケテ士族トナス等

而メ政府ノ目的ハ務メテ士族ヲ牢結シ士族ト共ニ開化ニ
進ムベシ農商ト共ニ進ムハ百年ニメ以テ効シテ見ルニ
足ラズ士族ト共ニ進ムハ五十年ニメ粗速効ヲ見シ此ノ
如クナレハ士族亦自ラ義務ノ在ル形ヲ知リ志樂ム所アリ
甘メ王室百足ノ虫タラシ而メ常々一方ニ就テハ要用ナル
儒医法律百家ノ科學是レヨリメ起ラシ是レヲ士族ノ用ヲ

收ムトナスナリ

以上士族ノ用ヲ收ムルヲ論ス

今ノ士族處置ヲ論スルハ否ナ是ノ謂ニ非ルナリ士族ノ禄
ヲ處置スルノ謂ナリ之ニ答ヘテ曰シ士族ノ禄ハ自今二十
年向フベキノ日ニ非ルナリ

蓋シ政府ノ士族ヲ處スルハ亦異ナリト云ベシ昨日禄ヲ減
シ今日禄税ヲ課シ明日米禄ヲ變メ金禄トナス猶指ヲ切り
手ニ及ヒ漸ク体ニ至ル者ノ如シ今マ士族タル者怨望ハニ
極マル更ニ又其ノ原禄ヲ問ハ、是レ己ニ体ニ及ヘリ之ヲ
屠テ餘類無ラシムルト其相去ルハ幾何ソ

故ニ今日士族ヲ処スル其弊ヲ論スルニ唯タニ道アルノミ
一ハ之ヲ屠テ餘種無ラシムルナリ一ハ之ヲ奪クモ其用ヲ
收ムルナリニツノ者正ニ相反セリ禄ヲ收ムル下ハ其用ヲ
收ムルノ道ト水火ノ勢ナリ
抑地租改正ノ會計窮ヲ告ク士族ノ禄ヲ向フ下至テ己ム下
ヲ得ザルニ出ル歟
之ニ答ヘテ曰シ會計ノ窮スルハ社ニ原因アリ今日十省ノ
設ケル官冗吏ノ多キ和漢洋古今ノ無キ所ナリ古ハ一政
府ニメ足ル今ハ十政府ヲ置ク今ノ官制ヲ変スル下無シハ
天金貸ヲ雨ラスト虽モ猶不足ヲ告ントス

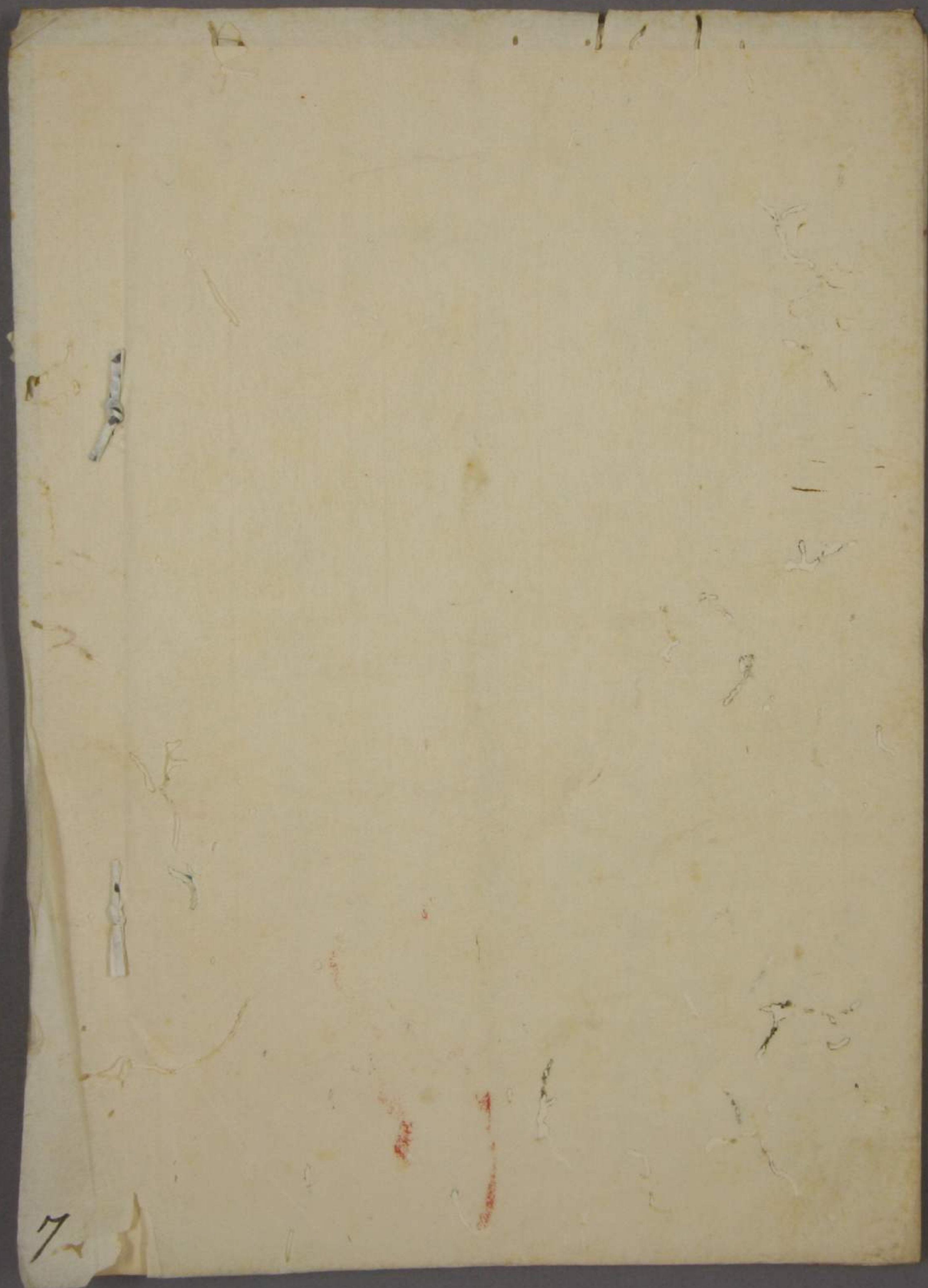
士族ノ禄ヲ奪フト官制ヲ変革メ冗官冗吏ヲ省クト同ク以
テ國計ヲ救フニ足テ而メニツノ者ノ難易安危ハ人ニ必ス
能ク之ヲ辨知セン

官制ヲ変スルノ議ハ另ニ草稿アリ此ニ贅セズ

以上士族ノ禄奪フベカラザル下ヲ論ズ

附云若シ至テ己ム下ヲ得ズハ華族ノ千石以上士
族ノ百石以上ヲ削ル下可ナリ万其下ニ及ヌベカラザ

九ナリ



7